

ドクターNAKAMURAの 健康道場



Vol.52 禁煙するとは 言ったけど…

「主任。しゅに～ん。」振り向くと同じ部門の中堅、玉木が息を切らせながら追いかけてきた。「古川さん。これないっすか？」指を二本立てる。「どしたん。そんなに息を切らして。」「これないっすか？」玉木がもう一度、古川にねだる。「お前、禁煙したって言ったん違うん。」

「言いました。確かに言いました。この間、嫁に詰め寄られたんっすよ。うちの子供とタバコとどっち取るんやって。俺の頭ん中は羽を付けたクエッションマークが飛びまくりで、は～？って聞き返したんすよ。そしたらあいつ俺の胸ぐら掴んで、あんた、ってすごい剣幕で向かってくるんっす。こっちは何が何だか訳が分からんから、お前誰に向かって何をしよんぞ！って反射的に答えたら、あいつ、目を吊り上げて昨日のテレビで言ったけどヘビースモーカーの父親の受動喫煙のお蔭で高

校生の娘が心筋梗塞になってしもたが。どうするんぞって睨み付けてくるんっすよ。俺は俺で、赤の他人の子が心筋梗塞になったからって俺に向かってこられてもな～って感じで、は～？俺に言われてもどうしようもないがな、って。そしたら、うちの奴は、テレビの事やない。うちの事や！、この子の事や！、この子の将来をあんたは奪ってしまうんか！。この子が心筋梗塞になって死んでしもたら、どう責任取ってくれるんや！ってすごんでくるんで、ちゃんとベランダで吸いよろが！ってやり返したんっすよ。そしたらあいつ、服についたタバコの匂いでも受動喫煙になる言よったわ！って血眼になって迫ってくるから、つい勢いに負けて、分かった。禁煙するわ。やめたらええんやろ、やめたら、タバコ。そん代わりに、浮いたタバコ代は俺の小遣いやぞ。びた一文渡さんからな。って啖呵を切ったまではいいんっすけど、タバコを吸いたくて吸いたくて仕方ないんっす。頭の中が重くなっていくのが、タバコを吸った瞬間に風船みたいに軽くなるというか、快適になると言うか、生き返れるというか。タバコを吸うと落ち着くんっすよね。」

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科
(県立中央病院 前)

院長 中村 陽一